

職員の人件等について

問

一・女性管理職登用が後退したのなぜか。
二・長期病欠職員の発生を未然に防ぐ対策はどのようになっているか。

答

中村市長

一・女性管理職が増えることで、視点や発想の幅が広がり、多様で複雑化する住民ニーズに対応するために極めて重要であると認識している。
二・部長への登用については、個人の能力や適正、職務経験等を基本として、適材適所の原則のもとに行うもので、今年度は結果的に女性課長が一人であるが、女性職員個々の能力等を十分見極めた上で、今後も積極的に登用していき

たいと考えている。

答

総務部長

二・合併直後から対策に取り組んでおり、平成十七年度は、管理職を対象にメンタルヘルス研修を実施、平成十八年度からは、月に一回外部の専門カウンセラーによる相談室を開設している。
今年度も全職員対象の研修も予定しているが、最大の予防策は日常、身近に接する部署長が所属職員のメンタルヘルス不調のシグナルにいち早く気づき、速やかな対応が重要であると考えている。

障害者の医療費支払いについて

問

六十五歳から六十九歳の障害者の医療費負担が、一部において三割から一割になる方々に積極的に周知し、一人の漏れもないように配慮するべきと思うが、その配慮はされているか。

答

市民福祉部長

六十五歳以上七十四歳以下で、後期高齢者医療制度に入ることができる障害者の程度が三級と四級の一部の身体障害者手帳を持つている方については、健康保険課から個別に制度の説明書を送付し、老人保健に加入できる方については、福祉課の窓口で障害者手帳交付の際にしおりで説明すると同時に保険担当課へ案内をしており、六十五歳未満の方についても、しおり等で説明を行っている。

交通弱者に配慮したまちづくりについて

問

一・道路・歩道・公園等の凸凹を解消してほしい。
二・伊予鉄・JRに対し、階段・段差の解消やトイレの改修など、申し入れて改良に、手を尽くしてほしい。とりわけ新川駅の改良を望む。
三・小・中学生に、自転車の交通指導を徹底し、交通弱者への配慮を促してはどうか。

答

中村市長



歩道の点字ブロック

一・市道等の舗装の損傷については、現在は市職員や市民からの通報で対応しているが、今後は、郵便局や市内民間業者との連携体制の整備を検討し、一日も早く路面改修等を行い、事故を未然に防ぎたい。
二・公園、歩道等のインターロッキング舗装は、永年の使用で劣化が目立ち、構造上管理に苦慮しているが、なお一層維持管理に努めていきたい。
三・駅構内のスロープや障害者用トイレ等の設置については、順次各駅の現状調査を行い、改善を要する箇所については、伊予鉄道とJR四国へ要望していきたい。

特に、利用率の高い伊予鉄郡中線の新川駅については、

高齢者や障害者等に優しい駅として利用できるよう改善を要望したいと考えている。

答

上田教育長

三・市内すべての小・中学校で交通安全に関する指導を伊予警察署や交通指導員等の関係機関とも連携しながら、毎年実施している。
特に自転車については、懇話やビデオ視聴による通ルールやマナーに関する指導など児童・生徒の発達段階に応じた指導内容を工夫している。
小学生には、自転車を運転していても、お年寄りや幼児に対して重大な危険を及ぼす可能性を理解させ、歩行者優先について実地訓練を交えて繰り返し指導している。

福祉の観点から、総合的な学習の時間に高齢者や障害者の模擬体験を通して、点字ブロックや信号機等の意義を理解し、交通弱者への配慮を図る取組を実施している。

その他の質問事項

・資源ごみの持ち去りに関して
・教育行政に関して



水田 恒一 議員